



明日の自分を変えるのは、今日の行動。 勉強も仕事も趣味も、すべてを面白がるコツを学ぶ。

2018年6月28日(木)、高崎商科大学・高崎商科大学短期大学部の1年生全員を対象に、今後の学生生活やその後の社会生活において必要となる「考え方」を再認識することを目的に特別授業『ゲーム会社事業開発部長の面白がり方』を開催しました。講師を務めたのは、グリー株式会社 Japan Game事業本部 シニアマネージャー/ファンプレックス株式会社 執行役員 事業開発部長の村田卓優氏。その様子をレポートします。

「面白い」とは、どういうことか？

「面白いとは、好きな時に好きな人と好きなことを好きなだけすること。でも、その好きなことを見つけるのが難しい」という言葉から始まった特別授業。今回講師を務めた村田氏は、学生時代には落語サークルに所属し学生落語日本一に。社会人としてはセキュリティメーカーの営業を経験した後、ソーシャルゲームで有名なグリー株式会社へ転職。投資先企業管理や事業買収、VR事業など多数の案件に関わり、現在はグリーの子会社であるファンプレックス株式会社に事業開発責任者を担当。さらに仕事のかたわらミニ四駆好きな社会人を集めたミニ四駆部の部長を務めているなどバラエティに富んだ経歴の持ち主です。本特別授業は、そんな村田さん自身の経験を通して、大学生活3か月目の学生達に「好きになること」「面白がること」そして「学ぶこと」に対するユニークな視点を知ってもらうために、大学1年生ゼミナール科目、短大1年生キャリア科目において企画・開催されました。



勉強の方法を勉強する。

では、好きなものが見つければそれで終わりかというところではないと村田氏は言います。「好きなものをより好きになるには勉強が必要なんです。大学では勉強をする。でも、社会に出ても実は一生が勉強。勉強の方法・コツを知らないと本当にどうしようもない人生送ります。だから、大学では『勉強の方法』を勉強しよう。」

私たちは「興味のあるもの」と「興味のないもの」という捉え方をしがちです。しかし、興味がない、将来役に立たないと切り捨てず、どうやったら理解できるか、面白くなるのか、その方法を身に付けることが大切だという言葉に学生たちは何かをつかんだ様子でした。

明日の自分を変えるのは、今日の行動。

「今日の話聞いてみて、そうだなと思うことがあれば周囲に話したり、SNSにアップしてみよう。好きなものは周囲にアピールすればするほどより情報が集まり、より好きになれる」。自身が立ち上げたミニ四駆部の話を例に情報を発信して仲間を見つけることの大切さを説明しました。

そして最後にこう締めくくりました。「この中で、実際に行動する人はもしかしたら10%くらいかもしれない。でも、明日の自分を変えるのは、自分の今日の行動しかないんです」。

1年生にとっては初めての企業人による特別授業。今後の学生生活の糧となる特別授業となりました。

行動力のある人にだけ、好きなことは見つかる。

では、好きなものを見つけるにはどうすれば良いのか。意外にも自分が本当に好きなものが何なのか悩んでいる学生達に村田氏はこう語ります。「今、みんなが過去の自分を振り返ってみて好きなものを見つけるのも良いけれど、それだと人生で『面白い』と思えるものの総量が減るかもしれない。だから知的好奇心全開で未知に挑戦してほしい。行動力のある人にだけ、好きなことは見つかる。」

初年次教育において 一線で活躍する企業人と接触することの意味

本学は「自主・自立」を建学の精神に掲げる実学教育の大学です。現在、企業連携「3.5本の矢プロジェクト」をハブとして企業や行政と連携し、「専門性」を高めるとともに「経験」や「発見」をも重視した学びを正課・課外において展開しています。

すでにプロジェクト開始から3年が経ち、これまでも様々な試みが行われてきましたが、その中で課題を感じていたのは、大学における初年次教育の意義です。初年次教育は上級学年において必要となる「知の技法」をトレーニングする場であり、その意味合いは極めて大きい。重要なのは「技法」のトレーニングにあたる初年次教育が、その後の学生生活さらに社会人生活においても必要不可欠な能力を身に付けるためにあると学生自身に納得してもらうことです。

今回特別授業を行った「日本語リテラシー」は1年次のゼミナールにあたる科目です。この科目では統一されたシラバスのもとにそれぞれの担当教員が創意工夫を行いながら授業にあたっています。その効果を最大化させることこそが本特別授業の目的でした。村田さんにはご自身の学生としての視点、そして社会人としての視点から学生達にその意義を伝えていただきました。



高崎商科大学
高崎商科大学短期大学部
教学課長 森本 圭祐

難しいからと思考停止せず、 粘り強く考える癖や、わかる喜びを大学で体感してほしい。

私自身が「面白い」を見つけたきっかけや、それを「面白がり」続けることの良さを話させていただきました。自分で考え、行動することを習慣にすれば一生の財産になります。難しいからと思考停止せず、粘り強く考える癖や、わかる喜びを大学で体感してほしい。大学時代というのは、将来の希望と不安の入り混じる時でもあるので、今お話できて良かったです。ただし決意だけではなく、行動が全てです。ぜひ、周囲の方には実行に移すことをサポートしていただきたいと思います。とはいえ、私が大学にうかがって驚いたのは、教職員の方々が学生一人一人の名前はもちろん、趣味嗜好まで細かい情報を把握されていたことです。きめ細かいサポートをしてもらえる大学だと思いました。ぜひその環境を無駄にせず、卒業するまでに自分の好きなものを見つけて社会に羽ばたいてほしいと思います。



グリー株式会社
Japan Game事業本部
シニアマネージャー
村田 卓優 氏

参加学生のリアクションペーパーより

商学部 経営学科1年生

自分の興味のあることを自分の中だけで処理せず、周りの人と共有して自分自身のことをアピールすることで世界が広がるという言葉にハッとしました。

商学部 会計学科1年生

大学から簿記の勉強を始めて、不安になることもあるけれど、勉強するほど分かることが増えて楽しく感じる。勉強しないと好きなものが見つからないってこういうことなんだと思った。

短期大学部 現代ビジネス学科1年生

なんとなく続けていることや、やっていることにもう一度向き合って、本当に自分のやりたいことなのか、本当に自分に必要なものは何なのかを考えてみたいと思いました。

